



スイス：国際紛争解決に理想的に適した国

融合しつつも独立である：スイスは長い連邦主義の伝統があり、その伝統は3つのアルプスのコミュニティが集まった緩やかな連邦に、独自の歴史的文化的な背景を持つ州が何世紀もの間に任意に合流したことにまで遡ります。このプロセスを通じて、スイスはヨーロッパの中心に位置し、近隣諸国と密接な関係を持ちつつも、欧州連合の一員ではないという強いナショナルアイデンティティを持つ独立国家となりました。

アクセスが容易である：スイスには80以上の国から直行便が飛んでいる3つの国際空港（チューリッヒ、ジュネーブ及びバーゼル）があり、世界中から簡単にアクセスできます。市街の中心地へは、空港から車や電車を使って短時間で行くことができ、スイスの発達した公共交通ネットワークのおかげで、国内の移動は簡単で安心（あらゆる天候に対応しており、ストライキはほとんど発生したことはありません。）です。

政治的に安定している：スイスは継続性に定評のある国です。その政治システムは中世まで遡り、今日の現代的な連邦制度の主要な要素は1848年には確立されています。スイス政府の比較的珍しい特徴は、政府の全てのレベルの全ての主要な政党が連立しており、継続的な均衡と抑制により、何十年もの間政治的な安定と予測可能性が確保されてきた点です。

多文化的で国際的：スイスは3つの主要な言語的な地域（ドイツ語圏、フランス語圏及びイタリア語圏）に分割されます。また、人口の4分の1以上が外国生まれか外国人です。したがって、スイス人のアイデンティティ観は、人種や言語が同一であることに基づくものではなく、むしろ民主主義や多文化主義という共通の価値観に基づいたものです。多くの専門家が外国で働き、勉強をし、生活したことがあり、また外国からスイスに移住してきており、複数言語を使用できます。おそらく外国交易に歴史的に依存してきたためであると思われるが、スイスは伝統的に他の文化に興味があり、それらに対して開放的です。

中立：スイスは軍事的に中立を保ってきた長い歴史があります。かかる中立性は1815年のウィーン会議にて国際的に認識されており、赤十字（ICRC及びIFRC）や国連（二番目に大きな拠点がジュネーブにあります。）だけでなく、WTO、WIPO、IATA、IOC、FIFAといった多くの国際機関の本拠地としてスイスが選ばれている理由の1つとなっています。

知識豊富：スイスには、世界でも常に上位にランクインしているチューリッヒとローザンヌのスイス連邦工科大学（ETH及びEPFL）を含む複数のヨーロッパ最高の大学が所在しています。また、800万人をやや超える程度と人口が比較的少ないにもかかわらず、金融（UBS、クレディ・スイス）、製薬（ノバルティス、ロシュ）、工業（ABB）、食品（ネスレ）を含む複数の分野で、複数の世界最大で最も有名な企業の本拠地となっています。バイオテクノロジー、医用技術、時計産業など他の産業にも星の数ほどの企業が存在します。

外交と世界平和に尽くしている：スイスは積極的な外交方針を持ち、世界平和に貢献する社会的、経済的、人道的な活動を行っています。スイスは中立の仲介者としての役割を果たし、多くの国際条約会議の開催地となり、外交の世界で重要な役割を果たし続けています。